

行政調査特別委員会 行政視察結果報告書

令和8年2月12日

報告者	第2班		
参加者	班長 亀井 崇幸	副班長 川島 憲朗	斎藤 伸幸
	筒井 巖	荒川 礼子	

◆視察項目

実施年月日	令和7年10月8日（水） ～ 10月10日（金）		
視察目的	1 スポーツ合宿や大会の受入体制及び誘致活動について	鹿児島県垂水市	
	2 企業誘致に係る取組残飯について	鹿児島県南九州市	
	3 天文館図書館について	鹿児島県鹿児島市	
視察概要	先要	垂水市	<p>*人口：14,283人 *面積：162.12km²</p> <p>*特徴：県の中央、大隅半島の北西部に位置。西側に隣接する桜島とは、1914年の大噴火により1kmに渡り地続きになっている。古くは島津一門家である垂水島津家の城下町として栄えた。鹿児島湾に面した湾岸線は37kmに及び、ブリやカンパチの養殖漁業が営まれる。農業はサヤインゲンなどの施設野菜、ビワなど果樹栽培、ブロイラーなどの畜産業も行われている。</p>
		南九州市	<p>*人口：34,152人 *面積：357.91km²</p> <p>*特徴：薩摩半島の南部、鹿児島市の南西約30kmに位置し、南は東シナ海を望む。西日本有数の農業地域で、農業産出額は国内上位。肉牛、鶏卵などの畜産やサツマイモ、キャベツ、大根、ニンジンの産出額が多く、茶は栽培面積・生産量ともに国内1位。地場産業には焼酎や仏壇などがある。知覧地区には武家町があり、庭園が国の名勝に指定。</p>
		鹿児島市	<p>*人口：601,546人 *面積：547.61km²</p> <p>*特徴：鹿児島県中央部に位置し、周辺はシラス台地で、市街地は甲突川などの河川により形成された平野部に形成。江戸時代は薩摩藩77万石の城下町として繁栄。市域には桜島全域が含まれているが、活火山を抱えながらも現在では九州4位の人口を持ち、高次都市機能が揃った南九州の中核都市。離島である大隅・奄美や沖縄方面とは定期航路が就航。</p>

◆視察結果（個別票）

個別項目	スポーツ合宿や大会の受入体制・誘致活動、また、国民体育大会やスポーツ合宿・各種大会等の誘致及び開催を通じた交流の促進について 【鹿児島県 垂水市】			
	視察先担当課	水産商工観光課	添付資料	有 ・ <input type="checkbox"/> 無

I 視察項目における日光市の現状・課題

日光市では、『『スポーツの力で スポーツで未来へ』～“だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも”スポーツに親しみ、スポーツの力で未来を創造するまち～』を基本理念とした、「日光市スポーツ推進計画」を策定した。本計画では、市民の誰もが生涯にわたりスポーツに親しむことは、健康増進や生きがいつくり、地域コミュニティの醸成といった「人づくり」、「地域づくり」において重要であると位置付け、スポーツと観光の連携によるスポーツツーリズムの推進も、誘客促進や地域活性化に向けた取組の一つとなっている。

この計画は、平成28年度から10年間の計画であり、「生涯スポーツの推進」、「子どものスポーツ活動の充実」、「競技スポーツの推進」、「スポーツ環境の整備、充実」の4つの基本施策を柱として、スポーツの推進を進めている。また、日光市スポーツ推進計画の策定から6年が経過した時点で、国や栃木県のスポーツに関する計画が更新されたことや、令和4年に栃木県で第77回国民体育大会及び第22回全国障害者スポーツ大会が開催され、新型コロナウイルス感染症のまん延など社会情勢にも変化が見られたことから、日光市スポーツ推進計画の改訂を行った。

この計画の中で、恵まれた立地条件や観光資源とスポーツの力を結びつけ、市外の方も参加する大会の情報提供や、スポーツ合宿の誘致等のスポーツツーリズムを推進している。

市内スポーツ施設を会場とした各種大会及びイベント等の案内はもとより、スポーツ合宿の誘致に関して、豊かな自然環境や温泉宿泊施設、首都圏からのアクセスの良さを背景にスポーツ合宿の誘致を行っている。また、市内のスキー場やスケート場を利用する合宿で、かつ、市内の宿泊施設に連続して2泊以上の宿泊をする場合は、宿泊費の補助を行うなどのスポーツ合宿補助制度も整備している。

しかし、補助制度が冬季スポーツに偏っていることや、施設の老朽化による運営上の様々な課題も山積しているのが現状である。

II 日光市の課題を踏まえた視察の目的

垂水市では、訪れるスポーツ団体等の技術向上と有意義な合宿の実施、垂水市の経済の活性化を目的に、合宿の受入れを積極的に行っており、合宿の受入れにあたってはスポーツ合宿誘致事業を活用した支援を行っている。

今回、スポーツ振興に関する内容を目的として、

- ① スポーツ合宿及び大会誘致について
- ② スポーツ施設の整備について
- ③ トップレベル選手の試合誘致や交流、スポーツ講演会について
- ④ スポーツにおける安全の確保について
- ⑤ スポーツツーリズム推進について

など、先進的な取組を参考とするため、視察先に選定した。

III 事業の取組内容

垂水市は、鹿児島島のシンボル・桜島に隣接し、年間約200日が晴れの天気ということで、温暖で過ごしやすいため、スポーツ合宿にも適している恵まれた気候である。また、錦江湾の地形を生かしたカンパチ・ブリの養殖が盛んで、美湯豚というブランド豚やシラス土壌で育てられた農産物も豊富で、「食」という観点からもスポーツ合宿に人気がある。

この立地条件を生かし、経済活性化を図ることを目的に合宿誘致のための組織（スポーツ団体等誘致実行委員会）が設立された。当初は志布志港に着岸する「さんふらわあ」を活用した関西圏からの合宿を誘致するために、関西圏の大学野球部を中心に誘致活動を開始したが、現在は様々なスポーツ団体、文化系団体を対象に誘致を行っている。

スポーツ団体等誘致実行委員会

スポーツ団体等誘致実行委員会は市長を会長とし、副市長が委員長、観光協会会長が副委員長、教育長や総務課長・企画政策課長・社会教育課長・水産商工観光課長が委員を務め、誘致等に必要なる事業の推進や円滑な誘致を推進するため、宿泊施設や体育施設などの関係機関や各種団体との連絡調整を行っている。

垂水中央運動公園

スポーツ施設としては、垂水中央運動公園に、2023かごしま国体のフェンシング会場となり大規模改修された空調設備完備の体育館、強豪高校サッカー部の合宿の

聖地とも言える全面天然芝の多目的グラウンドである「たるみずスポーツランド」、インターハイ選手を数多く輩出した屋外クレートニスコート8面、全天候型テニスコート3面を有した「キララドーム」、数多くの甲子園球児がプレーした土と天然芝の「野球場」などが一か所に集中して配置されている。

宿泊施設

垂水中央運動公園は市の中心部に位置し、半径6キロメートル以内に市内の全ての宿泊施設へアクセス可能な立地となっている。温泉旅館やシティホテル、コテージなどの宿泊施設は用途に適した案内ができるよう工夫されていることも注目すべき点である。

誘致活動

スポーツ団体誘致の取組として、対象団体は垂水市内の宿泊施設を利用し、合宿を実施するスポーツ系及び文化系の団体とし、対象要件は合宿参加人数が10名以上かつ人泊数が20人泊以上であることを条件に、体育施設等の使用料免除や垂水市スポーツ団体等誘致実行委員会等から市の特産品（例：海の桜勘^{おうかん}・ぶり大将・桜島美湯豚^{びゅうとん}・飲む温泉水など）を贈呈するなど、特徴的な事業を展開している。

鹿児島県が運営する「かごしまスポーツ合宿・キャンプガイド」にて広報することや、年2回鹿児島県が主催するスポーツ合宿セミナーへ出席するなどの広報活動を行うとともに、県内の高校や垂水市と連携協定を締結している大学などを訪問し、誘致活動を実施すると同時に、問い合わせしやすいように申請手続を電子化するなど、合宿を考えている側に沿った対応を心がけている。

IV 事業の成果・課題

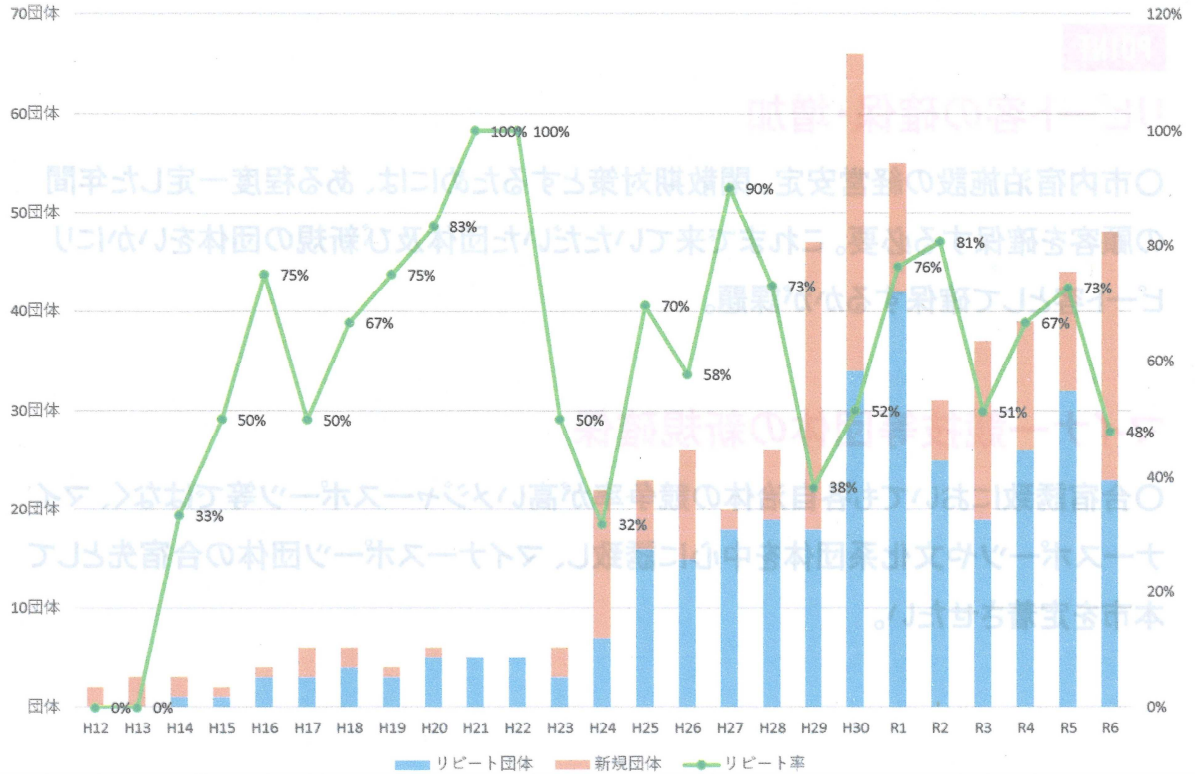
誘致実績

直近3年間の誘致実績

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
合宿団体数	39団体	44団体	48団体
延滞在人数	5,548名	5,213名	4,819名
延宿泊数	4,087名	3,549名	3,428名

誘致実績について

【スポーツ合宿リピート率の推移】



コロナ禍前の数には届かないものの、順調に回復している。注目すべきは団体数であり、平成29年の団体数を超えて増加傾向にある。

また、リピート率もある程度高い水準で推移している。一度利用した団体における納得感の表れだと推測できる。更に、選手とのコミュニケーションを大切にして、セミナーにおいて丁寧な説明を行うとともに、積極的にSNS発信を心がけていることも大きな要因である。

地域貢献としては、改修した体育館にて、フェンシング競技のトップレベル選手の招致試合を通して講演会を開催し、市民とトップアスリートとの交流促進を図っている。まさにフェンシングの聖地とも言える体育館へと成長した。

誘致の効果

令和6年度実績による試算では、宿泊施設や飲食店への経済効果は約2,200万円としている。固定団体の確保はもとより、閑散期における宿泊数の確保、合宿をきっかけとした観光PR、体育施設の有効活用に大きく寄与している。

スポーツ団体等誘致実行委員会の年間予算が120万円ということを考えると、宿

泊施設への効果が2,056万8,000円、飲食店への効果が171万4,000円という数字は効果的な事業として認識されている。

施設整備状況

施設名	面積	施設内容		建設費(単位:千円)	
		本体施設	付帯施設	財源別	工事費別
たるみずスポーツランド	総面積 23,000 m ²	ソフトボール 多目的グラウンド ウォーキングコース	事務室・集会室・放送室・ 医務室・更衣室・湯沸室・ 倉庫・器具庫・トイレ	国庫 129,052 起債 363,493 市費 388 計 492,933	芝生グラウンド 176,055 建設式スタンド 79,531 芝生スタンド 12,265 倉庫 23,760 トイレ 34,105 その他 167,217 計 492,933
野球場	総面積 17,000 m ²	両翼 91m 中堅 120m	事務室・会議室・放送室・ 審判室・役員室・記者室・ 控室・医務室・更衣室・シャ ワー室・湯沸室・倉庫・スコ アボード・バックスクリーン・ メインスタンド・芝スタンド・ 館内通話施設・プロパン 庫・トイレ	国庫 48,271 起債 119,500 市費 6,316 計 174,287	グラウンド 33,680 メインスタンド 74,600 芝スタンド 52,968 スコアボード 13,039 計 174,287
体育館	総面積 5,283 m ²	鉄筋コンクリート 2 階 建	6人制バレー 4面 9人制バレー 3面 バドミントン 12面 テニス 3面 卓球 6面 トイレ	国庫 225,000 起債 416,200 市費 138,800 計 780,000	計 780,000
庭球場	総面積 12,800 m ²	テニスコート 8面	管理棟・倉庫・砂置場・トイ レ	国庫 90,000 起債	工事費 173,000 事務費

				81,000	7,000
				市費	計
				9,000	180,000
				計	
				180,000	

課題と今後

市内宿泊施設の経営安定、閑散期対策とするためには、ある程度一定した年間の顧客を確保し、さらに増加させる必要がある。これまで来ていただいた団体及び新規の団体を如何にリピート客として安定的に確保するのかが課題となっている。また、合宿誘致において各自治体の競争率が高いメジャースポーツ等ではなく、少しずつ増加しているマイナースポーツや文化系団体を中心に誘致し、マイナースポーツ団体の合宿先として定着をさせるということも課題のひとつとなっている。

V 日光市の施策への反映

当市もスポーツ推進計画を策定し、スポーツツーリズムに対する事業を行っているが、策定から10年が経過し、令和8年度以降に向けて第2次日光市スポーツ推進計画の策定が待たれている。

- 本市は、「日光国立公園」をはじめとする豊かな自然環境、国際的に認知度の高い「世界遺産 日光の社寺」、併せて温泉宿泊施設による高い収容能力とともに首都圏からの鉄道と高速道路によるアクセスにも恵まれている「自然と観光の宝庫」です。本市では関係団体などと連携し、このような恵まれた立地条件や観光資源とスポーツが持つ「人を動かす力」を結び付け、参加交流型イベントの継続実施、全国規模の大会などの誘致・開催のほか、アウトドアスポーツ等の活用、スポーツ合宿の誘致等スポーツツーリズムを推進します。これらにより、交流人口の拡大と地域経済の活性化を目指していきます。《推進計画より抜粋》

策定当初のスポーツツーリズムの推進（スポーツと観光の連携）は、今後も必要な事業と捉え、目的に即したスポーツツーリズムの推進を継続して行っていくことが重要であると考えます。

当市では、先述したように、特定のスポーツに限られた合宿補助制度があるが、垂

水市で行っているように、あらゆるスポーツ団体更には文化系団体への誘致活動を行うことで、新たな地域への経済効果や体育施設の効率的な利用促進が図られるものだと考える。

当市は垂水総合運動公園のように一か所に集中して体育施設が存在しているわけではない。広域なために各地域に体育施設が点在している。とはいえ体育施設の数では垂水市を上回っている。当然予算の関係上、全ての体育施設の整備には制限があるが、宿泊施設の数や飲食店など、合宿誘致のポテンシャルは他地域に対して優位に立っていることは明白である。それぞれのスポーツに応じた体育施設を整備することで、合宿誘致の可能性は高いと考える。例えば、垂水総合運動公園の野球場は準硬式野球までの対応が可能となっているが、今後、野球場のネットを改修して硬式野球が可能な整備を行っていくとしている。当市においても軽微な改修で、合宿誘致はもとより全国規模の大きな大会誘致も不可能ではない。観光だけに捉われないスポーツツーリズムの推進に向けて、戦略的な組織の設置とともに宿泊事業者や飲食店事業者との連携強化を切に願うところである。

VI 視察の所見

垂水市は、鹿児島県中央の大隅半島の北西部に位置し、桜島と1キロメートルに渡って地続きとなっており、鹿児島湾に面した海岸線において営まれるブリやカンパチの養殖漁業が盛んな町である。人口は市制施行直後に3万5,000人を超えていたが一貫して減少し、近年では13,000人程度となっている。その中で、地域資源の特性と美しい農山漁村環境を生かし、交流人口の増加に向けて推進しているスポーツツーリズム事業は、持続可能な地域社会を築くために重要な柱となっている。今回の視察においてその重要性に改めて気づくことができた。

また、垂水市は鹿児島空港から車で1時間程度の距離にあるが、今回の視察に際し、議会事務局の方に鹿児島空港から垂水市役所、そして桜島港まで送迎をいただいた。今回、スポーツ合宿や大会等の誘致並びにスポーツツーリズム推進について視察させていただいた中で、様々なスポーツ団体に対し、おもてなしの心を大切にして多くの方々に寄り添っている事業展開を聞き、送迎していただいたのも日頃からのホスピタリティの高さからくるものだと感心させられた。

スポーツツーリズムの推進は、施設の整備や立地条件、安定した気候などに恵まれていることに優位性があるが、一番大事なものは「おもてなしの心」、市の職員や地域

の方々のサービス精神の醸成に他ならない。官民一体となって邁進することの重要性、組織の確立並びに弛まぬ努力と実行力は、目標達成のために重要な要素であり、それらの事業は、あらゆる側面から継続的な見直しを行うことで、大きく育っていくものだと考える。

当市においても、そのポテンシャルは高いものがある。スポーツツーリズムの推進に向けて官民協働の組織を立ち上げ、更なる交流人口・関係人口の構築に努めることが必要なのではないかと感じる有意義な視察となった。

(川島憲朗班員)

◆視察結果（個別票）

個別項目	企業誘致に係る取組全般について			【鹿児島県南九州市】
	視察先担当課	企画課、商工観光課	添付資料	無

I 視察項目における日光市の現状・課題

いま地方への移住・定住が注目を集めている。コロナ禍により多くの企業でリモートワークが導入され、テレワークを実施するなど多様で柔軟な働き方が浸透してきたことで、（１）首都圏よりも居住費が安い、（２）転職せずに地方への引っ越しが「できる」、（３）自然の中で生活が「できる」、などの理由で、都市部から地方への移住・定住を現実的に考える方が多くなっている。

日光市は少子高齢化による人口減少が急速に進行し、また、宇都宮や東京圏への人口流出が続いている。人口格差は地域間における深刻な問題となっていることから、国は地方移住を推奨し、各地域の特性に合わせた独自の取組を推進している。特に若年層が地方から大都市圏に流出し、地方の総人口および生産年齢人口が減少していることから、地域社会の担い手不足に加え、消費市場や地方経済の縮小も課題となっており、これらを解決するためには地方移住を推進する取組が重要になっている。

II 日光市の課題を踏まえた視察の目的

南九州市は平成19年に旧穎娃町、旧知覧町、旧川辺町が合併し誕生した市であり、面積は約357平方キロメートルで人口は約3万人（約16,000世帯）、鹿児島県の南西部、薩摩半島の南部に位置し、県都である鹿児島市の南西約30キロメートルの位置に隣接している。

交通のアクセスとしては、東京から鹿児島まで飛行機で2時間、大阪から1時間15分で、新幹線では新大阪駅から3時間50分、博多駅からは1時間20分であり、鹿児島空港から南九州市までは車で65分、鹿児島中央駅からは45分の場所に立地している。

観光としては、第二次世界大戦中に旧知覧町に陸軍の飛行場があり、特攻隊の基地となっていたことから「平和と命の大切さ」を後世に語り継ぐために「知覧特攻平和会館」が建設され、学生や企業の研修の場にもなっている。

産業では、一年を通じて温暖な気候で豊かな自然に恵まれていることから、お茶や

サツマイモは全国でもトップクラスの生産量を誇っている。特に知覧茶は全国的なブランドとして出荷され、日本を代表するお茶の産地である。また、川辺牛や鹿児島黒豚、さつま鳥、鶏卵などブランド化した畜産業も盛んであり、第1次産業が主な産業となっている。

このように第1次産業が盛んな市において、いかにして新しい企業を誘致するのかを参考にするために、視察を行った。

Ⅲ 事業の取組内容

1, 企業誘致

(1) 実績

平成19年の合併以降、立地協定を締結した企業は17件であり、飲食業や社会福祉事業などを除き、操業企業は14件で市外企業が13件であった。

(2) 補助金

地域経済の発展及び雇用機会の増大を図るため、市内において新たに工場などを増設・新設・移転しようとする企業に対し、最大で8,000万円の補助金を交付する。

(3) 税の優遇措置

各種法律に基づき、工場や事業所など新增設する企業を支援するため固定資産税の課税免除を行う。

(4) 工業団地

南九州市には7か所の工業団地があり、それぞれの工業団地の分譲は終了し、新たな工業団地の整備計画はない。また、九州自動車道と南薩縦貫道が繋がったことから、交通の利便性が向上した。今後、知覧町新町周辺が南間地域の中心として発展が見込まれる。

2, 人材確保

(1) 現状と企業合同説明会

南九州市内には三つの高校があるが、大学はないため、卒業生の95パーセントは市外に流出しているのが現状である。そこで、市内企業22社が集まり企業合同説明会を開催し、地元企業の魅力を高校生にPRしている。

3, サテライトオフィス

市内3か所に、コワーキング・サテライトオフィス施設を整備し、活力ある地

域づくりにつながる企業を誘致し、市と一緒に課題解決をしている。

IV 事業の成果・課題

企業が地方の拠点としてレンタルオフィスに進出し、様々な人がコワーキングスペースや会議室を利用している。令和6年度のコワーキング利用者数は1607人、レンタルオフィス利用法人は7社、コワーキング法人利用は1社であった。

南九州市は、知覧茶という全国的なブランド茶や、焼酎の材料となるサツマイモの生産が多いにも関わらず、市内にはそれを原料加工する工場が少なく、お茶は静岡へ、サツマイモは近隣の市町へ出荷している。

人手不足が一番の問題であるため大型の工場が建設できないということであり、この問題が解消されれば、全国でも有数の工業地になると思われる。

V 日光市の施策への反映

日光市も同様の企業誘致や移住定住の施策は行っているが、日光市では行われていない施策もあり大変参考になった。

日光市は大都市の隣接地でもなく、海なし県の市でもあるので、南九州市と同様な施策が成功するとは思えないが、例えば子育て世代、定年後世代などターゲットを絞って予算と人材を集中させた方がよいと思われる。

特に南九州市は、女性が活躍する社会を目指し、お仕事講義、パソコンやテレワークの講習会を開催するなど、女性をターゲットとした施策が多くあった。若年女性の流出は人口減少に直結する問題であるので、市内で女性が安心して働ける環境を整えることは最も重要な施策であると思われる。

VI 視察の所見

日光市でも同様な施策は行われているが、南九州市ではサテライトオフィス企業誘致事業として2泊3日の「南九州市視察ツアー」を開催し、市内の企業や観光地などをめぐり、地域の魅力や特色、進出に向けての課題や現状の把握を行うなど、日光市では行っていない施策も多く大変参考になる視察であった。

企業誘致や移住定住の施策は、担当課だけでなく福祉関係から教育委員会、建設部署など多岐にわたり日光市全部署に関係する施策をバランスよく進めなければならないことから、日光市が本気で移住定住を推進するならば、専門部署の創設が必要と

思われる。

日光市も南九州市を参考にすべきところは多いと考え、調査研究を継続していく。

(亀井崇幸班員)

◆視察結果（個別票）

個別項目	天文館図書館について			【鹿児島県 鹿児島市】
	視察先担当課	天文館図書館	添付資料	有 ・ <input type="checkbox"/> 無

I 視察項目における日光市の現状・課題

本市では、1982年に開設された今市図書館のほか、地区図書館として日光図書館及び藤原図書館の3施設を有している。今後の市の図書館のあり方については、公共施設マネジメント計画にも照らし合わせながら、将来に向けて検討すべき重要な課題と捉えている。

II 日光市の課題を踏まえた視察の目的

本市においては、人口減少が急速に進行し、財政的にも厳しい状況にある中で中心図書館である今市図書館が老朽化を迎えており、将来的な施設のあり方を検討する必要性が高まっている。

近年、全国的に図書館を地域づくりやにぎわい創出の拠点として位置づけ、まちづくりの中心に据える自治体が増えてきている。その一例として、鹿児島市では令和4年、中心繁華街である天文館地区にオープンした複合商業施設「センテラス天文館」内に、市民や訪れた人を惹きつける魅力的でユニークな天文館図書館を設置し、新しい公共施設のモデルを示している。本市においても、今後の図書館のあり方を検討するうえで、大きな示唆を得られる事例と考え今回視察を実施した。

III 事業の取組内容

天文館図書館は、鹿児島市内最大の繁華街である天文館地区で、再開発ビルの商業施設センテラス天文館の4階と5階（約2,000平方メートル）のフロアを市が買取り令和4年4月に開館した。経費は、内装を含め約19億円、指定管理者制度を用いている。

再開発を民間が主導する中で、市もにぎわい創出を目的として、基本構想段階から公共施設を導入する方針を明確にし、基本設計は市が行った。

図書館のコンセプトは「新たな扉に会う場所」。

「そだつ」「くらす」「はたらく」「うみだす」という4つのテーマに分かれ、それぞれに合わせた蔵書と空間づくりがされている。

子供から大人まで、思い思いの扉を創造できるような居心地の良い空間となっている。

特徴として

- ・雑誌のスポンサー制度を導入
- ・館内には喫茶店を併設し、蓋つき飲料（アルコールも含む）の館内持込み可
- ・「そだつ」のコーナーには、子供たちが自由に遊べる空間を確保

週末や長期休暇の時には親子連れでいっぱいになってしまうほどの人気

- ・90席ある学習スペースは、平日夕方に学生や社会人で賑わう
- ・交流スペースは、トークイベント・ワークショップスペースとして、個人・団体に貸出し可能

また、画像解析AIによる蔵書点検やセルフ貸出システムなどICTを活用した効率的な運営を実施している。

IV 事業の成果・課題

開館当初掲げた年間で70万人の来館目標を大きく上回り、令和5年5月には、開館からわずか1年1か月で100万人を突破した。

特に子育て層への配慮が高く評価され、ファミリー層や若者層、大学生など、これまで図書館を利用してこなかった層の来館が増加した。

図書を読むだけでなく、気軽に訪れて居心地のよい場所として親しまれ、まちづくり・にぎわい創出の面でも大きな効果を上げている。

一方課題として、

- ・蔵書スペースが限られ、冊数が少ない点
 - ・人気の維持に向けた新たな企画展開の工夫が必要な点
- が挙げられている。

ただし、市立・県立図書館との補完により、蔵書面での対応は可能とされている。

V 日光市の施策への反映

天文館図書館は、「にぎわい創出」と「居心地のよい空間づくり」という目的のもとで、従来の図書館の枠を超えた柔軟な運営を行っている。

人口減少や厳しい財政状況の中で、本市においても、図書館を単なる読書だけではなく、まちづくりの方向性と連動した地域拠点として位置付ける視点が重要であると感じた。

VI 視察の所見

鹿児島市は中核市であり、人口約60万人の都市であるため、単純に比較はできない。しかし、天文館図書館の整備背景には、本市と同様に中心市街地の活性化という共通課題があった。

かつてにぎわいを見せた天文館地区も、鹿児島中央駅の開業後は人流が減少したが、図書館の新設により若者や子育て世代を呼び込むにぎわい拠点として再生を果たしている。本市においても、図書館を核とした地域活性化のあり方を検討するうえで、大変参考になる視察であった。

(荒川礼子班員)

令和8年（2026年）2月12日

行政調査特別委員長 齋藤久幸様

行政調査特別委員会第2班
班長 亀井崇幸

意見交換会の結果について

行政調査特別委員会第2班意見交換会の結果を下記のとおり報告いたします。

記

1. 日 時 令和8年2月5日（木）14：00
2. 会 場 委員会室（市役所本庁舎4階）
3. 実施内容 1）スポーツ合宿の受入体制・誘致活動等について
視察先：鹿児島県垂水市
視察事項：スポーツ合宿や大会の受入体制・誘致活動、
また、国民体育大会やスポーツ合宿・各種大会等の誘致及び開催を通じた交流の促進について
4. 出席者 班員5名
観光経済部観光課及び教育委員会スポーツ振興課 職員
5. 結 果
1）意見概要
《観光課》
・日光市内で行われたインターハイで観光PRブースを出展した際に、保護者から飲食に関する問い合わせを多く受けた。垂水市には、ブリやカンパ

チなどの名物を提供する飲食店が、中心市街地などの街中にあるのか。街並みの状況について伺う。

- ・合宿の補助事業について、栃木県にスポーツ全般に活用できる制度があり、補助上限額は50万円。県の制度を利用して日光市内で合宿をしている団体が多いことから、市としては県と連携し日光市内に宿泊していただけるようなPRを進めていければと考えている。

《スポーツ振興課》

- ・現在、新たなスポーツ推進計画を作成している。大きく変わるものではないが、分析等の中で、地域振興とスポーツを結び付けるところが課題だと認識している。
- ・スポーツツーリズムをどこに置くかということに関しては、日光市の特性を生かすということに着目することになると思う。たくさんの選択肢や考え方がある中で、食べ物や地元のを活用していくことなど、一体的に出来ればいいが、時間が必要だと思う。
- ・日光市の特色あるスポーツとして、アイスホッケー、フィールドホッケーがある。国体などの会場にもなっているが、全国的には少しマイナーであり、呼び込みという点で難しい面もある。他自治体の状況等を確認しながら検討していくことが必要だと考えている。
- ・硬式野球場の規格を満たすためには改築が必要である。今ある施設を活用しながら、いい方法を考えていければと思う。

《委員》

- ・垂水市の中心部には漁港があり、飲食店、宿泊施設などがコンパクトにまとまっている。
- ・垂水市のように、焼酎、ブリなどの名物があると合宿先として選ばれやすい。
- ・垂水市は、かごしま国体のフェンシング会場となったことを契機に、焦点を絞り、フェンシングに目を向け、合宿誘致等の取組を行い、成長に繋がった。
- ・垂水市のフェンシングのように、特定のスポーツのメッカになることで、飲食店や宿泊施設などが付随してくると思う。日光でもエリアを限定した上で実施することができれば面白いのではないかと思う。
- ・日光市では、設備的にみてフィールドホッケーとアイスホッケーだと思うが、3つ目をどう考えていくかということも必要ではないか。
- ・野球場に関して、日光市では準硬式の大会は出来るが、硬式の大会は出来ない。県内でも硬式ができる球場は限られているので、硬式が出来るよう

になると、新しい道が開けるのではないか。リトルリーグなどは家族で来ることも多いし、宿泊してもらえれば観光振興に繋がる。

- ・日光市には、しっかりとした合宿ができる施設が少ないと思う。一流の選手を呼べるようなメインとなる体育館が必要なのではないか。

2) 感想・所見

今回の意見交換では、垂水市と日光市との違いはあるものの、全国的に行われている合宿誘致やスポーツツーリズムにどう向き合っていくかということに関して、日光市としても認識していることが確認できた。

スポーツ施設や合宿所の整備には多額の投資が必要となり、短期間での整備は不可能としても、運動場7・体育館6・野球場8・テニスコート8・サッカー場4・ホッケー場1・スケートセンター2など、他地域と比べても多くの施設を有しており、軽微な改修で幅広いスポーツ合宿に適した施設が誕生することも考えられる。これらの施設を活用することで、地域振興や観光誘致にも寄与できると考える。既存の旅館やホテル、ペンション、民宿、ゲストハウスなど日光市には様々な形態の宿泊施設も存在するというポテンシャルの高さを契機と捉え、スポーツ推進計画に積極的に組み入れていただきたい。

人口減少、少子化に伴って、スポーツ施設の活用も減少傾向になるという予測を見据えて、既存施設の有効活用はもとより、さらなる関係人口の創出に向けて、行政と民間で組織する協議会の設置など、前向きに取り組んでいただけることを切に願う。